

編集後記

第六号を発行することができました。信州大学関係者からの石井鶴三関連論文が中心で構成されていた第一号に比べると、多くの外部の方からの投稿が掲載されるようになりました。石井鶴三だけでなく、昨年できた「北杜夫文庫」の関連論文や、LA（ラーニング アドバイザー）からの論文などもあって、附属図書館の色々な面を紹介できる出版物に変わってきました。

中央図書館は約三年をかけて増改築を行い、機能的にも充実しました。展示コーナーでの「山の日」の展示と「没後5年北杜夫展」は図書館員が企画して開催しました。その他ミニ展示は常時開催されています。また今年は、高校生の大学見学のコースにもなっているほか、「ミライの高校生応援プロジェクト」などで図書館を開放するなど、着実に成果が上がっています。

図書館の飛翔を感じさせる今、3月に定年で編集事務局を去る事になりました。既に第七号の原稿の約束を何人かとしていますので、今後に憂いはありません。編集の仕事は終わっても、今度は何か投稿したいと思っています。今年は3月に臨時増刊号を出す予定ですが、編集後記はこれが最後になります。

末筆ながら、雑誌担当の荻原千代さんがいなければ、一号から六号まで編集ができませんでした。心から感謝いたします。また第六号では金井美希さん、徳永澄子さんにもお手伝いいただき、ありがとうございました。

皆様お元気でお過ごしください。

折井 匡